

ぴっかぴかの どろだんごをつくろう！

に参加した小学生の絵日記

月日：2010 年 8 月 8 日（日）

小学二年生 T・T（神奈川県）

きょう、母のしょくばの友人が千ばけんの自ぜんかんさつしどういんをされていて、しょうわの森で自ぜんかんさつかいをすると聞いたので千ばけんまで行ってさんかしました。今回のテーマは「ぴっかぴかのどろだんごをつくろう！」でした。

まず、今回どろだんごをつくる赤土がどんな土なのかと、どろだんごはどのようにかたまるのかをべんきょうしました。赤土は「かんとうロームそう」といい、むかしふじ山やはこね火山がふん火してふつてきた火山ばいでできていて、長い間に雨やち下水などが風かして、赤くへん色してしまったもので、赤い色の正体はてつさびだそうです。どうして土がかたまるかというと、大(すな)、中(シルト)、小(ねん土)のつぶがしっかりとかたまるからだそうです。かんとうロームそうは大中小のつぶがほぼ同じよう入っているのかたまりやすいということもわかりました。

どろだんごづくりがはじまりました。まず、山おくでちょっとしめった赤土をさいしゅし、ねっこや虫やはっぱなどいらぬものをとりのぞきました。つぎに、しめった赤土を手のひらでにぎりしめ、かたく丸めて土だいをつくりました。三ばん目は、ちょっとだけ水をつけながら土だいのだんごの形がまん丸でひょうめんがツルツルになるように形をととのえて十分間かわかしました。四ばん目は、かわいた土を土だいにふりかけ手のひらでコロコロころがして、ひたすらひょうめんがなめらかでまん丸な土だいになるように丸めてから、さらに十分間土だいを休ませてゆっくりかんそうさせました。五ばん目は、新聞紙をひいて手をその上にこすりつけてねん土だけをとり出して土だいのひょうめんにくりかえしこすりつけました。さいご、かわいただんごをつめなどできずつけないようにちゅういしながらフェルトやストッキングでやさしく、やさしくこすって「そくせきどろだんご」のかんせいです。

一時間というみじかい時間でこんな本かくてきなどろだんごができるなんてビックリでした。ちそうのべんきょうもできたしたのしかったです。

かんせいしたどろだんごをじょうぶにもっとピカピカにするにはビニールぶくろに入れてれいぞうこに入れ、水分が出てきたらふきとってからさらにみがくとよいと聞いたので、今、れいぞうこで休ませています。みがくのが楽しみです。

